

# 語学教育におけるビデオ活用法

鈴木 博

## なぜビデオか

私は今担当している殆どのクラスで映画またはテレビドラマを使っている。その意義は次の五つにまとめられると思う。

- 1) 学習用に作られた教材の英語ではなく本物の英語が教えられる。
- 2) 英語の世界に浸る (total immersion) 体験に代る経験を与えられる。
- 3) 表情, 仕草, 態度, 位置関係など言語以外の情報を通じて言語表現の真の意味が理解できる。
- 4) 興味をそそるため学習意欲の維持が容易である。
- 5) 2か国語放送番組を自主的に利用して本物の英語に接する機会を多くするきっかけになる。

受講した学生に学期の終わりに感想を書いて出して貰ったりアンケートをとって見ると、学生も同じような意義を認めていることが分かる。しかも彼らにとって新鮮味のあまり無い訳読より魅力的に見えるらしい。殆ど異口同音に映画やドラマのビデオを今後も使うようにすべきであると書いている。

## ビデオの種類

今入手出来るビデオを制作の目的から次のように分類する事が出来る。

### A. 学習用

初めから外国語学習用につくられたもの。学習し易い反面、場面や言語表現に自然でないことが多い。

- ・NHKのTV英語会話番組の録画
- ・BBC, OUP, FILMSCAN, LIGUAPHONE, LONGMAN などによる外国製の市販ビデオ
- ・国産市販ビデオ

### B. 一般用

英語を母語とする視聴者向けにつくられたもの。極めて自然で本物の英語に接することが出来るが、そのままでは言語学習はしにくい。

- ・ 劇映画・テレビドラマのビデオまたはその放送録画
- ・ その他の原語によるテレビ放送番組の録画---2か国語ニュース, 英語の多いドラマ (例「Judyがやってきた」), インタビュー, 講演 (例 Reischauer's Last Lecture) など

以前はNHKのテレビ英語会話のスキットやBBCのPeople You Meet, The Bellcrest Story, The Sadrina Projectなどの学習用ビデオを利用していたが最近是一般向けの劇映画やテレビドラマを使うことが多くなった。しかし, AB二つの種類の間を使い方で大きな差があるわけではない。私のビデオ利用法では, 映像以外にどのような資料があるかによって使い方が変わってくる。

### 関連資料による分類とビデオ利用の実際

ビデオ教材として使う際に役立つ資料には次のようなものがある。その資料を一つ使うだけでも色々な学習活動が出来るが, 二つ以上組み合わせて利用すると実に様々な興味ある活動が可能となる。

#### 1. 完全台本

以前, 南雲堂で出版していた劇映画のスク립ト・シリーズ---Roman Holiday, East of Eden, Waterloo Bridge, Gone with the Windなど数十点。現在では「映画文庫」としてMelody, Stagecoach, The Red Ponyなど十数点出ている。

聴解力養成のためには次のような手法を使っている。90分授業で1回に15分位ずつ視聴する。LL教室では視聴と同時に学生は自分のカセットテープにサウンドトラックの音声を録音する。そのあと, 一部書き取りや穴埋めなどの作業を課す。最後にその部分の台本を配り, 配役を決めて朗読をさせ, 言語表現についての解説をする。次回まで台本を利用してセリフを聞き取れるようにして来るように指示する。次回の授業の最初にその部分だけ再視聴したのちテストをする。テストのやり方はビデオをもう一度視聴しながら途中で一時停止にし最後に聞こえたセリフをそのまま書かせる。5ないし10語の短いセリフを対象にして10題出す。それより長いセリフでまとまった内容のあるものについては同じく一時停止で最後に聞いたセリ

フの意味を日本語で書かせる。前者の場合は聞き取りだけに専念させるために音声テープを使うこともある。この手法は15分以上の長いものを意味を取りながら聞き続ける習慣を付けることと、短いセリフならそのまま口に出せるようになることを目指したものであるが、ここ数年使っていて多くの学生に効果があることが分かっている。

模倣練習の一手法としてセリフを学生の声で置き替えるようにさせると学習に熱が入る。あらかじめ役割を決めておき各自テープで練習してこさせる。授業ではビデオテープをアフレコ状態で再生する（映像は映るが、音声トラックは消えて学生の声を録音出来る状態になる。言うまでもないがテープはコピーを使う）。登場人物の役を当てられた学生は映像を見ながら自分の役のセリフを俳優の口の動きに合わせてマイクに向かって言う。それをLLのカンファレンス機能を使って登場人物の学生全員の声ビデオテープに録音するのである。

そのほか聴解力の基礎を養成するには同じものを繰り返し聞くことが大いに役立つという信念のもとに、学生が反復聴取すれば必ず高得点が得られるテストを考案して実施している。映画のセリフを色々なシーンから選んで15秒置きにテープに入れておき、それぞれのセリフが誰のもので何処でどんな場面で誰に対して話されたものであるかを書かせるのである。

## 2. 不完全台本

映画やドラマ制作時の台本で、制作中にセリフがかなり変えられることがある。上の The Bellcrest Story の市販台本、一時、ヒロメディアという会社が市販した劇映画の台本、一般に、フィルム購入時に付いてくる台本などはみなこの種類である。これを利用して完全台本の作成を授業の目標とする。初めから全て書き取るのは大変な労力と時間とかなりの聴解力を必要とするが、この方法ならその心配はない。しかし、どこが違っているのかについての指示はないので全文書き取りに近い細心の注意が要求される。しかもほぼ同じ内容の言い替えも学習出来る。

## 3. 舞台用台本

舞台上で上演された芝居がのちに映画化されることがある。The Sound of Music, Bus Stop, Amadeus, Dial M for Murder, Pygmalion (My Fair Lady), Splendor in the Grass などテキストも入手容易なものがある。これを利用して2と同様に完全台本を作成する仕事を課す。読解力と

聴解力の両方を伸ばすことが出来る。ただし、Dial M for Murder のように舞台用台本のかなり忠実な映画化であればよいが、Bus Stop のように1/4しか参考にならない場合もある。それでも固有名詞が分かるだけでも有難い。

そのほか、テキストをある程度読み進むごとにビデオを見ることもよし、全部読み終わってから通してビデオを鑑賞するという使い方もある。

#### 4. 小説

Love Story, The Graduate, Farewell to Arms, Little Women, The Letter, Shane など、のちに映画化された小説も多い。3と同じような利用法がある。Love Story のように原作に忠実な映画化のものを選ぶと学習効果を上げ易い。

#### 5. 2か国語放送映画の日本語吹き替え

全文書き取りに当って日本語の吹き替えが利用出来る。ただし、大胆な意識とか原作とは全く相違した吹き替えも多く、驚かされる。しかし、これによっていかに原語で聞けるようになるるとよいかを理解させることも出来る。

#### 6. 映画の字幕スーパー

字幕スーパーとなって映るのは一般にセリフのせいぜい1/3であり、それも極めて大胆に省略した意識が殆んどなので書き取りにはあまり役に立たない。しかし、最初にまず映画を通して観てからテキストを読めば大きな読み違いを防ぐことが出来るのでそういう利用も考えていい。外国映画の国産ビデオディスクは字幕入りとなっているが、同じ映画で字幕のない輸入テープやディスクと上手に組み合わせて使うとよい。

#### 7. Closed Caption

最近の米国製ビデオディスク・ビデオテープの多くが聴覚障害者のために文字多重放送と同じような方式でセリフが文字としても記録されていて、特別な装置(約5万円)をVTRとテレビの間に入れるとボタン一つの操作でセリフが聞こえると同時に文字が画面の下部に現れるようになっている。これは聞き取りの訓練には極めて利用価値の高いシステムである。聞き取りにくいセリフを繰り返し聞かせたあとボタンを押して文字を見せるという基本的な方法、その方式で新しいビデオ教材を制作して利用する、学生の全文書き取りの添削に利用させる等々、工夫次第で面白く学習しながら

学力をつける方法が開発出来るであろう。

このようにビデオは従来の講読のみの授業とは違った活動が出来るので、それだけでも学生の英語学習に対する興味を喚起し維持するのに役立つ。そしてビデオはとかくないがいにしろにされてきた音声面の学習に大いに貢献する。しかし何にもましてビデオは英語を生きた言葉として体験させることが出来ると言うかけがえのない意義を持っており、その体験をさせることが言葉の学習の基礎になるという意味で、ビデオは英語の教授・学習には不可欠と言える。